

宮城野区 原町地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 9 月 4 日掲載記事)

原町地区は仙台市宮城野区の西部に位置し、民生委員・児童委員は 30 名で構成されています。

震災直後は、避難所運営や日ごろ訪問や相談にあたっている方への支援を行なっていました。その後、当地域内にプレハブ仮設住宅が整備されたこと、また、当地区が JR 仙石線沿いに位置し、津波被害があった沿岸部から多くの被災者が民間賃貸仮設住宅に入居されたことにより、新たな支援活動を始めました。

被災者へ行なっている支援活動

○プレハブ仮設住宅への訪問



生活相談等の声かけや子育て世帯へ手作りおもちゃを提供する訪問活動。


○民間仮設住宅の被災者支援活動

被災者同士や地域の方とのコミュニティづくり、健康・生活再建相談、生活情報の場を提供。

平成 23 年度 130 世帯 ⇒ 現在 100 世帯弱

下記 報告書抜粋（平成 24 年度～平成 25 年 6 月）を参照

わわわっぺし☆原町	
「わわわ」とは和やかに笑い人の輪をつくり、「っぺし」は一緒にやろう！という意味。	
内 容	地域福祉に携わる様々な関係機関と情報交換を行い、連携して集いの場を提供している。 ☆茶話会・忘年会・音楽会・お花見会など <u>これまでの企画内容</u> ○余興(談笑のきっかけづくり) ○手作りタイム(オーナメントなど) ○軽体操 (旗揚げゲーム・指体操・ボール送り・ポンポン体操・ストレッチ体操・フラダンスなど) ○お楽しみ企画 (合唱・コーラス鑑賞、お菓子のつかみ取り、とすけ(注：宮城の方言でくじ引きのこと)) ○お茶タイム、お食事 (交流や生活・健康相談も行う)
	 

	<p>☆情報誌の発行</p> <p>原町での生活を少しでも楽しくしてもらいたいという思いから、情報紙を2回発行。</p> <p><u>掲載内容</u></p> <p>○町内会マップ ○地域の行事 ○サークル・施設情報 ○生活ロコミ情報</p>  <p>☆被災者へのアンケートの実施</p>
<p>参加人数</p>	<p>平成 24 年 10 月 21 名 12 月 46 名 平成 25 年 2 月 64 名 平成 25 年 4 月 47 名 6 月 51 名</p>
<p>関係機関</p>	<p>原町地区社会福祉協議会 原町民生委員児童委員協議会 原町連合町内会 原町ボランティアグループ NPO 法人おひさまキッズ 原町商工会 宮城野区社会福祉協議会 支えあいセンターみやぎの 宮城野区家庭健康課健康増進係 宮城野包括支援センター</p>
<p>参加被災者の声</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて参加するときはドキドキしましたが、共通したことで（被災したこと、避難生活など）直ぐに話ができ嬉しかったです。 ・毎回皆さんの顔を見るのが楽しみになってきました。 ・楽しい企画で、明るい気持ちになりました。 ・家にいると話をする 것도 体を動かす こともしないので、皆さんと一緒にできて楽しいです。 ・みんなで歌を歌うのがとても楽しかったです。健康的になったみたい。 ・地域情報誌がとてもうれしいです。マップを見ながら、みんなで買い物をしたり、お昼を食べに行くことにしました。 ・いつもそばで優しく話を聞いてくださって、本当にうれしいです。
<p>効果と展開</p>	<p><u>活動の開始時期</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時的な生活の場と思っているので、参加をためらっている方もおられたが、気軽な気持ちでの参加を促した。 ・震災で失ったもの、避難生活の苦勞を思い出して、涙で語り合い、「次回の集まりまで、また頑張る」といっていただき嬉しかった。

	<p><u>震災から2年がたつ頃の活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の輪も広がり、地域に活動を理解してもらえた。多様な機関の関係構築ができたため、それぞれの視点からの支援を効果的に協働できている。 ・被災者同士のコミュニティもでき、情報交換をしたり、悩みの語らいなどもしている。また、転入者と地域住民のコミュニティが交流会によって形成されたこと、顔の見える関係性で、被災者に地域で生活する安心感を与えられている。 ・参加の被災者自身が受け身の参加だけでなく、企画にも加わり始め、心の復興がうかがえる。
<p>民生委員の 声</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身内を亡くした自分の心も慰められていった。辛い気持ちもあるが、支援活動で、気持ちがまぎれることもある。(被災した状況の中で関わる委員さんの声) ・大きな災害は初めての経験で、復興が早いか遅いかはわからない。その感覚も人それぞれだが、感じる気持ちの裏にはその人の持ついらだちや、これからの生活の見通し、希望など様々な感情が背景にあると感じた。個人のレベルではどうにもできないことも多くある中、せめて気持ちの面で、穏やかに過ごし、生活の再建に向け、前に進められる支援活動を継続したいと思う。 ・この場に来ていただけるような情報発信をし続けること。声をかけ続けること。きっかけになるような仕掛けを織り込む。いつでも参加できるように待っている。 ・民間仮設住宅を出て、再スタートをされる方が増えてきた事は喜ばしいことだが、できかけのコミュニティが崩れたり、残されていくような、さみしい気持ちを持っていると感じることがある。 ・支援の形は変わっていく。答えはない。そんな思いの中、一人ひとりの生活スタイルや考え方が違う多様な状況のそれぞれに寄り添っていかれたらと思う。



自分でも予測しない感情が出てきて、どうにもならず、悲しみ嘆き、落ち込んでしまう日々を送るときもある。誰でも起こりうるそんな時も、あたたかい人の温もりや優しさが救ってくれる。自分の気持ちとは裏腹に笑顔になっちゃった。今日初めて会ったのに楽しく笑って過ごした。また、少し頑張って生きてみよう。辛いと口に出して言わなくても、笑顔で包んでくれる人の輪がここにある。

参加者より